

# 保阪正康さんと考える 【昭和史のかたち】



講師

ノンフィクション作家

保阪 正康

Masayau Hosaka

## 近代日本の歴史の法則と構図を考える

この講座は、昭和史を中核に、近代日本の歴史全体を理解することを前提とし、その理解の一助として初歩数学の図式を用いて、視覚の面から史実を解剖していきます。

史実は社会や人間の緩なす関係から成り立っているわけです

が、とはいえ、そこには一定の法則や構図があります。それを図式として視覚的に捉え、見究めていこうと思います。

近代日本の歴史を理解するために、この新しい試みに挑戦してみませんか。

保阪正康

10/8

14:00-17:00

### 昭和史と三角錐

底面をなすアメリカと天皇

1

昭和という時代は62年と2週間続きましたが、この期間に、人類が体験した事象や事件がすべて詰まっています。その意味では、昭和を生きた人々は稀有な体験をしたこととなります。この昭和という時代を前期・中期・後期と三つの期間に分け、三角錐にたとえて考えてみると、アメリカと天皇という二つの軸が見えてきます。

11/12

14:00-17:00

### 昭和史と二重構造

二つのナショナリズム

4

昭和のナショナリズムは上部構造と下部構造に分かれます。上部構造は国策を決定する政治集団のナショナリズムを指し、国家主義、民族主義などが含まれます。一方、下部構造は「国民の共同体の倫理」によるナショナリズムです。この二つの対立が昭和史の対照だったと言えるでしょう。二重構造を分析の鍵としてナショナリズムを考えます。

10/22

14:00-17:00

### 昭和史と正方形

日本型ファシズムの原型

2

昭和前期は、ある時期から超国家主義の時代に入りました。そこでは「情報の一元化」「暴力装置の発動」「教科書の国定化」「弾圧立法の拡大」という枠組みで国民をその中に閉じ込めていきました。その結果、国民の意識は身動きできない状態になっていきました。この四方形がどのように伸縮していったのかを振り返ります。

11/26

14:00-17:00

### 昭和史と正三角形

天皇と統治権・統帥権

5

明治憲法は、天皇を主権者とし、統治権と統帥権は天皇の大権でした。この正三角形のもとであれば、政治と軍事は円滑な関係にあり、戦争を選んだとしても、国力に応じた戦い方があったはずですが、軍事が政治を隷属させたがために、正三角形は二等辺三角形へと変形していきました。この過程を理解することで、昭和の元凶となった統帥権干犯の意味がわかってきます。

11/5

14:00-17:00

### 昭和史と直線

軍事指導体制と高度経済成長

3

日本人と日本社会はまとまりやすく、国民は勤勉です。それゆえに、ひとつの国家目標を立てると、最短距離を最速のスピードで突進していきます。満州事変から太平洋戦争の敗北まで14年。戦後の高度成長期に、世界の経済大国の地位を築き上げるまでに要した年数も14年。この時間の早さを改めて整理します。

12/10

14:00-17:00

### 昭和史とS字曲線

オモテの言論、ウラの言論

6

S字曲線を用いることによって、明治憲法下の昭和前期と占領期・独立回復後の昭和中期・後期がわかってきます。つまり言論弾圧と表現の自由が保障された空間の相違がわかるのです。戦前・戦時下の公認された言論（オモテの言論）と非公認・弾圧された言論（ウラの言論）は、戦後社会になるとウラとオモテが逆転してしまいます。この現象を二つのS字曲線を用いて説明します。

## 課題図書『昭和史のかたち』(岩波新書)

保阪正康氏の近著『昭和史のかたち』は、日本の近代、特に昭和史について多数の著作がある保阪氏が、歴史を理解するための新しい切り口を提示したことで話題になりました。大学研究者を志したこともあり、旧制中学・新制高校の数学教師であった保阪氏の父親へのオマージュを込めて、図形モデルを使って昭和史を解説しています。本講座では、この本を課題図書とし、もう一段深く入り込んで、昭和史の可視化を試みます。

## 開 催 概 要

日 程	2016年 10/8、10/22、11/5、11/12、11/26、12/10 (すべて土曜日)
回 数	6回
時 間	18:30-21:30 (3時間)
定 員	25名
会 場	慶應丸の内シティキャンパス
参加費	108,000円 (消費税8%込)
お勧めしたい方	◎日本の歴史、特に近現代史について知見を深めたい方 ◎これからの日本のあり方、世界の中の日本の位置づけについて歴史を通して考えたい方

## 講 師 プ ロ フ ィ ー ル

### 保阪 正康(ほさか まさやす)

1939年北海道生まれ。同志社大学文学部社会学科卒業。日本文藝家協会、日本ペンクラブの会員「昭和史を語り継ぐ会」を主宰。主に日本近代史(とくに昭和史)の事象、事件、人物に題材を求め、延べ4,000人余の人びとに聞き書きを行い、ノンフィクション、評論、評伝などの分野の作品を発表している。現在、『昭和史の大河を往く』シリーズ(毎日新聞社)は全13巻を数えている。一連の昭和史研究で、2004年に菊池寛賞を受賞。

## FAX申込書 FAX 03-5220-3129

必要事項に記入の上、FAXにてお送り下さい。

※お申し込みの際は末尾のキャンセル規定・諸注意を必ずお読み下さい。  
本申込書の受領をもってその内容を承諾いただいたものとみなします。

インターネットでのお申し込みは

<http://www.sekigaku-agora.net/>

### 参加者

講座名	保阪正康さんと考える【昭和史のかたち】	<input type="checkbox"/> agoraメンバーシップに申し込む
会社・団体名		
所属		
フリガナ		
氏名		
住所(資料送付先)	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先 (いずれかにチェックを入れて下さい) 〒	
TEL	-	-
FAX	-	-
e-mail		

#### ■キャンセル規定・諸注意

キャンセルのお申し出をされた場合、下記規定に基づいてキャンセル料をお支払いいただきます。いかなる場合も、参加費のお支払いのないことをもってキャンセルとはなりません。キャンセルの際は必ずご連絡下さい。◆開講28日前まで：キャンセル料は発生しません。◆開講27日～21日前まで：参加費の30%をキャンセル料としてお支払いいただきます。◆開講20日～14日前まで：参加費の50%をキャンセル料としてお支払いいただきます。◆開講13日前以内：参加費の全額をキャンセル料としてお支払いいただきます。ただし、当方の都合で開催を中止する場合は全額返金いたします。また、お申し込み日を含む8日間以内にキャンセルのご連絡をいただいた場合は、開講までの日数にかかわらずキャンセル料は発生しません。

#### 個人情報の取扱いについて(必ずお読みください)

ご参加のお申し込みにあたり、お客様から氏名、住所等の個人情報のご提出をお願いしております。以下のサイトをご確認の上、ご同意いただける場合のみ、個人情報の提出をお願いします。また、お申し込みをもって下記にご同意いただいたものとみなします。  
<https://www.keiomcc.com/privacy.html>

なお、Webを見ることができない場合、または上記に関するご質問等ございましたら、右記までお問い合わせください。

### 支払方法

支払名義	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 法人
支払方法	<input type="checkbox"/> 銀行振込 (振込手数料をご負担下さい) <input type="checkbox"/> クレジットカード

### 割引制度 (個人申込のみ)

<input type="checkbox"/> 複数申込割引 下記に他講座名を記入して下さい [ ]
<input type="checkbox"/> 継続受講割引
<input type="checkbox"/> 慶應カード割引

#### ■割引制度(個人)

【複数申込割引】…一度に複数の講座へお申し込みされる場合、参加費を最大20%割引いたします。慶應MCCで開催する「知的基盤能力プログラム」や「先端・専門プログラム」との組み合わせも対象となります。(「夕学五十講」を除く。)  
◆20%割引:108,000円(税込)以上の、「agora」および「知的基盤能力プログラム」を複数同時に申し込んだ場合  
◆10%割引:上記以外の講座・プログラムを複数同時に申し込んだ場合  
【継続受講割引】…過去慶應MCCの講座・プログラムに参加し、終了日より1年以内にお申し込みをされた場合、参加費を10%割引いたします。(「夕学五十講」を除く。)  
過去に法人名義で参加された方も、個人で申し込む場合は対象となります。  
【慶應カード割引】…慶應カード会員の方が個人でお支払いいただく場合に限り、参加費を10%割引いたします。慶應カードとは、慶應義塾とクレジットカード会社との提携クレジットカードです。塾員・教職員および学生を対象としています。

#### ■割引制度(法人)

「agora」およびビジネスプログラムへ一度に5名以上派遣される場合、合計人数に応じて参加費を割引いたします。(「夕学五十講」を除く。)詳しくは下記までお問い合わせ下さい。 ※一部適用されない場合がございます。

### 〈お問い合わせ先〉

東京都千代田区丸の内2-5-2  
三菱ビル10階 株式会社慶應学術事業会 TEL:03-5220-3111  
E-mail:info@keiomcc.com

今後慶應MCCより各種情報をご案内させていただきたく存じます。  
ご不要の方は右記にチェックをお願いします。